

第15回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会ぬくもり部会議事録

(敬称略)

- ◆ 開催日時：平成27年10月19日（月） 18：30～20：00
- ◆ 開催場所：登別市役所2階第1委員会室
- ◆ 出席部者：部会長 雨洗 康江
副部会長 田渕 純勝
部会員 鎌田 和子
今 順子
岩浅 眞純
松本 朋史（市庁内検討委員会 部会長）
【保健福祉部次長】
吉田富士夫（市庁内検討委員会 副部会長）
【保健福祉部子育てグループ総括主幹】
- ◆ 欠席者： 千葉 円哉
- ◆ 事務局： 堀井 貴之【総務部次長】
菊地 徹【総務部企画調整グループ主査】
山本 直人【総務部企画調整グループ主査】
早坂 晃正【市民生活部市民協働グループ】
- ◆ 議 題：第3期基本計画より総合戦略について

《部会長》

本日は、「第3期基本計画より総合戦略について」を議題として進めたいと思いますのでよろしくお願いします。まず、事務局より説明をお願いします。

《事務局》

これまで長い期間話し合いを重ね作り上げてきました基本計画について、一カ月半ほど前に提言書をいただくことが出来ました。ご協力ありがとうございました。

今回、体系図も含めて皆様の想いが込められた総合計画第3期基本計画と登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画案を作成し、皆様にお送りしたところです。基本計画案と戦略案につきましては、先月の25日から今月の24日迄パブリックコメントを実施し、市民の意見を募集しておりますので、提言書をいただいた後ではありますが、この期間内に市民検討委員会の皆様から情報提供をい

ただきたくお集まりいただきました。

はじめに、お送り致しました基本計画と総合戦略について簡単にご説明させていただきます。

まず第3期基本計画案については、皆様と時間をかけて話し合い、体系図と提言書をいただいておりますので、その想いを受け止め文章化させていただきました。その4ページ第一章「やさしさと共生するまち」以降が、この部会で基本計画案として作り上げてきた部分です。では実際どういったことをするのかということにご興味がおありかと思えます。市は現在、担当グループより来年度取り組みたい事業を募集し、それに基づき事業選定をするという実施計画ローリングを行っており、各担当グループより来年実施したい事業が提出されている状況です。この中から事業を選定したり、これまでの事業を継続したりしながら新しい基本計画をスタートこととなります。皆様には既に市民自治推進委員会に移行する旨をご了承いただいております、来年度以降は基本計画も出来上がっておりますので、事業も含めて自治推進委員会の場で協議させていただき、より良い計画の実施が出来ればと思えます。基本計画についてはこれまでの話し合いの内容が網羅されておりますので、まずはご一読いただき、ご意見がありましたらお願いします。

次に、登別市まち・ひと・しごと総合戦略案についてですが、こちらは初めてご覧になるかと思えます。地方創生につきまして以前一度ご説明していたかと思えますが、現在、地方から都市部へ人口が流出し、反面その都市部では出生率がとても低いということが日本全体の人口減少につながっており、それを何とか克服したいということで、東京への一極集中を是正することや若い世代が結婚や子育てに希望を持てるように実現させていくために、各市町村で地域の特性に応じた戦略を立てるというのが地方創生ということになっております。その名のもとでそれぞれの自治体が総合戦略を策定し取り組むこととなります。登別市としては基本計画に連なるものとして戦略を立てております。

戦略につきましては大きく3つに分かれております。1つめは1ページからの人口ビジョンで、登別の人口が今後どうなっていくのか、人口減少を緩やかにしたいという目標が指し示されております。37ページからは総合戦略で、人口ビジョンを実現するための具体的な取組が記載されております。81ページからは参考資料で、今回戦略を策定するにあたり市民からいただいたアンケートの結果が集計されております。

まずは人口ビジョンから説明します。3ページのグラフが登別市の人口と将来の人口の予測値です。1983年(昭和58年)がピークで59,500人でした。現時点では50,000人前後で、今年度中に50,000人を切るかもしれないといったところです。国立社会保障人口問題研究所の推計によると登別市は2040年(平成52年)には36,400人程度になる予想です。4ページのグラフによると生産年齢人口(15歳～64歳)は緩やかに減少の見込みで、老年人口(6

5歳以上)については、増えるイメージがありますが、実際の人数自体は平成32年にピークを迎え、それ以降減少見込みです。年少人口(0歳~14歳)については急激ではないにせよ減少していくとの展望です。老年人口も減る時代が来ます。ただ、割合としては生産年齢人口が減っているため、老年人口の割合が増えることが推測されます。次に、人口の増減を語る際に使用する言葉として社会増減と自然増減があります。社会増減とは、転出する人と転入する人の差で、自然増減は、生まれる方と亡くなる方の差です。まず社会増減については丸のグラフが転出される方、四角のグラフが転入される方で、概ね転出の方が多くなっています。8ページでは転入・転出が年齢別に表わされています。平成25年度においては、0~4歳、15~19歳、30~34歳、55~59歳は転入が多く、20~24歳は転出が圧倒的に多くなっています。これは想像ですが、15~19歳は工学院などへの入学で転入が多く、20~24歳は卒業・就職で転出が多くなるのではないかと思います。30~50歳は若干増加しています。また、室蘭市からの転入がとても多く、あくまでも推測ですが、30~34歳はおそらく家の購入などで登別に転入し、この世代の方の子どもとして0~4歳の転入も多くなっているのではないのでしょうか。下のグラフですが、転出先が国全体では東京への一極集中とは言いましたが、登別市からの転出はほとんどが道内ようです。次の9ページでは、北海道内の自治体でどこが転入超過・転出超過かを見ることができます。やはり札幌市が圧倒的で、2位の伊達市、3位の苫小牧市とは比べものになりません。札幌市への転出超過をカバーするには至りませんが、室蘭市からの転入が200人以上ありますので、登別市の人口を維持する要因の1つとなっているのかと思います。次の12ページでは自然増減が記載されています。丸いグラフが亡くなられた方を、四角いグラフが生まれた方を表しており、亡くなる方の数が圧倒的に多いです。これを急に改善することは不可能であるため、出生を増やすことの方に可能性があるかと思われます。8割を超える人が結婚をしたいという希望があるので、結婚や子供を育てる環境を充実させることで出生率を上げることが可能になるのではないのでしょうか。13ページでは合計特殊出生率について記載しています。グラフで分かるようにだいたい減少傾向です。室蘭市1.45、伊達市1.40に比べて、登別市の1.36よりは低いですが、北海道平均1.25や札幌市の1.08に比べればまだ多いほうではあります。しかし、出生率2.07で人口の維持が出来るということなので、今のこの数字では人口が減少しても当たり前の出生率となっています。これらの分析を踏まえた上で、この先どう取り組んでいくのかということが35ページより記載されています。国立社会保障人口問題研究所の推定によると2040年(平成52年)には登別市の人口が36,411人になると推定しています。その上の39,448人が今回の戦略で目標としている人口です。他の自治体で分析結果の1.5倍や1.8倍を目標にしているところもありますが、登別市は現実的な数字を目標として取り組も

うと思います。大変難しいことではありますが、合計特殊出生率を2.00まで上げること、かつ2人家族を10世帯、合計20人これまでより多く登別市に移住してもらうことで、この目標の人口39,448人が実現できる計算になります。リアルな数字とはいえかなり困難ですが、なんとか目指したいというのが、人口ビジョンの結論です。

この人口ビジョンを受けて総合戦略を作っていくのですが、43ページにその総合戦略の体系が記載されております。策定方針でも同じものをご覧になったと思いますが、基本的には「住みつづけたい、住んでみたいと思える魅力あるまちへ」をキャッチフレーズに掲げています。具体的には、定住人口の確保、交流人口の増加を目標に、その下に施策の柱として、

- ①子どもを生き育てやすいまちへ
- ②安心して老いを迎えることができるまちへ
- ③市内の各産業が元気に展開されるまちへ
- ④観光地として魅力あるまちへ

という4つの基本目標を掲げています。

また、登別市ではただいま移住定住政策も取組中ですが、このまちに来たいと思っただけが重要ですから、様々な施策を複合的に行い、まちの相対的な魅力の向上に努めることで移住定住政策が原動力となるようにしていこうということで、あえて下に記載しております。

子どもを生き育てやすいまちへという基本目標が記載された44ページから先が、具体的な戦略になります。その下に書かれた基本目標・数値目標・子育て施策への市民満足度が以前お話ししたKPI、施策の到達目標です。これについては、平成24年と平成25年に市民アンケートを実施しました。平成24年度は79.5%の方が「不満無し」と答えていますので、これを四捨五入し、5%プラスで基本目標の統一的目標としています。その下に、講ずべき施策に関する基本方法ということで、戦略に合わせ新たに書き起こしたものです。戦略は5年間、基本計画は10年間という差があるため、目標は同じでも取組みに多少差が出ますので、新たに書き起こしました。45ページ以降はご存知のように、地方創生に資するであろう基本計画を抽出して記載しています。四角い囲みの部分は主な事業・取組ということで事業に踏み込んで記載しています。既存のものもありますし、地方創生で新たに取組む事業も記載しています。例えば授乳スペースの設置やブックスタートなどは主な事業に掲載しています。また、高齢者用GPS機器による見守りも既に実施中で、年に何回か発生する認知症の高齢者が出掛けたまま行先が分からないといった事例を防ぐためGPS機器を貸与しており、ご家族での検索や、または市役所でも代理で検索が出来るような取組みもしています。

観光に関しては、これまでロビーには設置のあった無線LANを、各部屋に設

置るのであれば一定額助成するといった戦略に向けた新しい事業についても主な取り組みに記載しています。こちらには現時点の事業や、今取り組んでいる事業を記載しているので、基本計画と同様に、今行っているローリングで事業採択しアップデートしていきます。今年度から市民自治推進委員会に移行した際は、協議させていただき更に良いものにしていきたいと考えております。これで終わりというのではなく、この先もご協力をいただき見直しに努めていきたいと思っております。

81ページからについては、子育て世帯と考えられる年齢層18～44歳、高齢者層55歳、65歳、75歳、あと高校生、専門学校生、事業者を対象にアンケートを出させていただき、その内容について記載しております。細かい説明は難しいのですが、例えば、子育て世帯が求めているものは「児童手当」などのお金に関するものが多いのかと予想していたら、意外と「自然を生かした遊び場や公園が不足している」といったものに回答が集中していました。自由記載についても、あまりにもひどい内容のもの2～3件以外は全て原文のまま載せていますので、この先協議する上でのアイデアにもなると思っておりますので、ご一読いただければと思います。戦略についての説明は以上です。

次に、国からのお金の話しについてですが、未だ来年度以降についての情報は国から何も来ておりません。今年度までは国から全額貰えていたのですが、報道機関を通じて、この先は事業の半分になるという話があります。また、申請すれば単純に貰えるとか、戦略に載っていることなら貰えるというものでもなく、先駆性があり、他のまちの参考になる今迄に無い取り組みでなければ貰えないのでは、といった話もあります。何より4月には貰えず、6月位に補正で対応することになりそうだとした情報も若干あるため、今のところ皆様に具体的なお話しが出来る状況ではありません。これからも情報収集に努めていきます。ただ、戦略を作ったのはいいけれど財源が無いという状況になっております。取り急ぎ説明いたしました。何かご質問等ありますでしょうか。

《部会員》

目標に対する数値が具体的に示されてはいますが、これについての議論はしていません。今までの10年間の反省を生かして指標をどこに置くか、達成度はどうなっているのかという話になると思っていたのですが、そこはどうなっているのでしょうか。

《事務局》

第2期基本計画の指標に関しては、最初にお配りした仮総括の中で、途中結果ではありますが、指標の到達度がお示ししてありました。ですが、どうしても指標なので、何を以て到達したかというのが難しいのが現状です。検証について

は、計画が終わり次第すぐに回しますので、来年度の早い段階には何らかの形で総括したものをお示しできるかと思います。今回の指標の設定に関しては第2期基本計画を踏まえながら、担当グループに考えてもらったものになっています。ものによっては第2期と同じものもありますし、新たに起こしたものもあります。

《事務局》

これは、なるべく数値化をしようとしたものなので、そのまま目標の達成度を表しているとは限りません。もっと客観的に表せるものがあればご意見をいただいてもいいかと思います。

《部会員》

第2期のまとめの中で、その整合性についての見直しはするのでしょうか。

《事務局》

第3期でも同じことを行うかどうかはわかりませんが、第2期については5年経った時に中間点検を行いました。その際に指標が到達したものは更に上乗せをしたり、もう制度上無いものは無くしたり、様々な見直しを行っております。

《部会員》

議論せずに数値化されたものなので、この数値が妥当なのかを誰が判断するのでしょうか。

《事務局》

当初、必ずアンケートを取ろうという案もありました。わかりやすい数値が出るのですが、項目がかなり多くなり市民の負担も重くなるため全部アンケートにするのは難しいということになりました。中にはアンケートを取るものもいくつか含まれてはおり、それで要点を絞りつつも全体的には出来るだけ市民の皆様にもわかりやすく作ったつもりではおります。例えば検診の受診率などはアンケートを取らなくても見えてくると思いますし、実績としてはわかりやすいのではないのでしょうか。

《部会員》

現実的に数値化されているものは実績を踏まえた上でこの先どうしようかというのはわかりやすいです。難しいのは、アンケート結果をどう見るのかということで、あくまでも参考にするしかないのかなと思います。この数値化されたものも含めてこれで決定なのではないでしょうか。

《事務局》

具体的に、こちらの数値の方が使えるのではないかというものがあれば、提案していただきたいです。

《部会員》

アンケートも含めて具体的なものは、出しやすいと思います。しかし、この委員会で議論してこないで、このような数値が独り歩きしてしまっているのかという疑問があります。

《事務局》

あくまでも、目安としての指標なので、接近度をはかるうえでひとつのものさしになるものを設けたわけです。趣旨が入れ替わったりするものでもなく、逆にもっと良い数値が無いのかと問いかけていただければ、再度担当の方で検討しておします。ここで議論してもらうのもひとつの手かとも思います。

《部会員》

基本計画の中で、具体的にはどうするかということ踏み込んで話してきていないし、明確に文章化もしていません。それで、議論もないままこのような数値とどう整合したのか、市民に説明できるのかやはり疑問があります。

《事務局》

このような事が始まった頃、市の側も同じように戸惑いました。この数値がそのまま目的と思われることに無理があるのではないのでしょうか。しかし、国で奨めている方針としては、行政が言葉だけで記載しては客観性が無いということになり、こういう施策の成果を数値的に表して出すというのが今の流れとなっています。ですから、この数値イコール目標に対する達成度なのかということと必ずしもそうとは言えません。ですが、そういった努力を繰り返し、指標の入れ替えなどを行いながら、良いものがあれば変えていくということです。

《部会員》

「見える化」するということでしょうか。

《事務局》

数値で表すというのは難しいことですが、今回、この総合戦略でも数値を使っており、努力と成果を数値化することが必須とされています。

《事務局》

この委員会で、政策・施策、いわゆる大きな部分をまず議論していただき、その中で「事業名」にこだわった時もありましたが、ここでは事業まで踏み込んで議論しないで、もっと大きな「考え方」について議論しました。全ての事務事業については、事務事業評価で評価しています。作りとしては、何百もある事業のうちの何本かをたまたま目標設定して、どのぐらい目標に接近したかを目安として載せるという構成になることを事前に説明しておくべきだったと思います。

《部会員》

そういうまとめ方で提示するという、構成についての説明は事前であってもよかったですと思います。全く事務事業の話しになっていないのにお金がかかるものが出てくるというのには戸惑ってしまいます。

《部会員》

目標を数値化して、それに向かってどう取り組むか、具体的に施策をどう打っていくかということに繋げていきたいのだというのはわかります。

《事務局》

第2期と第3期の比較があるため第2期の目標を引き継いでいますね。

担当は、議論する余地を比較したいからです。ただ、新しいものは、前のものをゼロにし、新しい数字を入れてあるということですね。

《部会員》

では、前書きにその辺りのことを記載してはいかがでしょうか。

考え方として明らかにしておくべきではないでしょうか。

《事務局》

指標の位置づけですね。持ち帰って検討させていただきます。

《部会員》

総合戦略の話しになりますが、10年後などの長いスパンで見た時の人の出入りによる人口の増減が根底になっていると思いますが、子どもを生む環境をどう整えるかとなると、なかなか具体案が出てこないのではないのでしょうか。

《部会長》

若者は自分の充実した時間を有効に使いたい、あるいは面倒くさいということで、恋愛をしないと聞きます。雇用の状況が良くないなどで、結婚する気になれ

ない、子どもを生む気になれないということも聞きました。

《部会員》

過去のことを考えながら意見提言することも大事だと思いますが、それが今の子どもを生む世代の人たちに受け入れられるのかという議論をどこかでしなければいけないと思っています。

《部会員》

生んで育てるとなると、今度は教育にもつながっていきます。法律とかも少しずつ整ってきているけれど、現実にはどうかという意識がなっていないような気がします。自分もきちんと育児休暇を取り、男性も育児休暇を取れるといた北欧並みの状況にならなければ、いくら目標を立てても現実には難しいと思います。

《部会員》

子どもはいらないという若い人も多いけれど、実際に子育てしてみるとこんな素晴らしいことは無いわけですね。

《事務局》

この戦略は、10月迄という短い期間で提出しなければ、国から予算がもらえないという状況の中で作成したものでした。予算もそれほどたくさんつくものでもなかったもので、それ以外の方は市がずっと負担しなければいけません。ですから、着実に「住みやすい、子どもを生みやすい」という小さなことですが、それを複合的にという表現をさせていただいています。

《部会員》

結果的に効果があったら、お金を付けてくれたらかなり良いですね。

《事務局》

あくまでも推測ですが、来年は国が半分お金を出して、残りは市が負担をするといった状況になりそうだと報道されています。戦略に載せた事業は市としてもやり続けなくてはいけないので重い責任があります。

《部会員》

簡単に結果は出ないものを、すぐに国が求めているのはおかしいと思います。

《事務局》

華のあるような事業というのはなかなか出来なくて、市としてもずっと地道に

やり続けるような事業でないと、というのが現実です。

《部会員》

アンケートの結果は率直な意見が書かれてあり、興味深いですね。

しかし、何かきっかけを作るのなら、若い世代の人たちの意見を聞かないと、ここだけで議論していても的外れになるのではないのでしょうか。

《事務局》

アンケートも若い世代の方から取るよう努力いたしました。こちらとしても、まちづくりについて若い方達と話をしたいのですが、なかなか集まらないのが現実ではないかと思えます。

《部会員》

結婚しない人、子どもを持たない人の意見をもっと聞くべきではないでしょうか。

《部会員》

小さい時から大人になるまで子どもを育てるという素晴らしい経験をしていただきたいです。しかし、結婚する前にいろいろな心配ごとがあるのではないのでしょうか。例えば結婚相手の両親が年をとった時どうするのかなど、30歳くらいの人は考えるのではないかと思えます。総合点のなかでは、おそらく良い人がいないわけではないのですね。

《部会員》

子育てをして初めて一人前だと思います。いろいろな経験が無いと理屈だけでは人間が育たないと思えます。これからのことが本当に不安です。

《部会員》

小学校の高学年くらいから10年経ったらちょうど成人です。その頃の世代をターゲットに調整していくしかないのではありませんか。すでに20代半ば以上の方達にはなかなか期待しにくいでしょう。今の人たちの価値観も昔とは違うし、経済力の心配も男性にはあると思えます。

《事務局》

今の社会で、男性だけの給料で生活していくのは難しくなっているようですね。2人分の給料でどうにか暮らしていくとなると、今の制度のままでは女性も働くことになり負担がかかってしまうことになりますね。

《部会員》

小さい子どもを持つ女性が働くとなると、なかなか仕事に就けないのが現実です。小さい子どものいる人を雇う場合、事業者側の心配もあるのだと思います。

《事務局》

仕事に就きやすい環境に少しでもしていかないといけないところですね。

《部会員》

独身の女性達に、なぜ結婚しないのかと問うことは今の時代難しいことですから、気軽に話をする場所を提供して考えを聞いてみるのはどうでしょうか。街ぐるみでの合コンとでもいいでしょうか。かたや、すごく結婚したい人もいるのではないですか。

《事務局》

87ページが、アンケート上の結婚に関する印象や不安となっております。一番「出会いが無い」、二番「気楽さを失う」の2点が同じくらいの回答があります。反面、22%の方達が「結婚に何の不安も感じてはいないが、ただ結婚していない」といった結果になっています。価値観が無いのか、そこにヒントがあるのかはわかりかねます。婚活については道が先頭に立って行っています。しかし以前も話しましたが、役所が婚活を主催するとすごく良い人が来るのではと誤解をされてしまう可能性もあるため、役所が直接やるのは難しいかなと思います。

《事務局》

まずは、ここまで来たということでご報告を終わらせていただきます。まだ時間もありますので、お気づきの点などあればご連絡をいただければと思います。

今後の予定をお伝え致しておきます。この戦略のほうは、10月30日迄作成するとお金がもらえるという仕組みがありますので、パブリックコメントが終わったらすぐ施案にさせていただきます。基本計画につきましては、第3期から議決をもらわないといけなくなりましたので、予定としては12月の議会に提案しようと思います。ですから、まだもう少し時間に余裕がありますので、ご意見等いただければ大変ありがたく思います。

もう既に提言書の提出も済んでいたのですが、パブリックコメントも実施中であり、本日は情報提供のためにお集まりいただきました。

先ほども申し上げましたが、方向性というルールが出来て、次に事業を載せていきます。市民検討委員会が終わったあとも自治推進委員会というかたちで守っていただくことになるかと思っておりますので、またご協力をお願い致します。

次は、自治推進委員会をどのように運営していくのか等について、本年中、お

そらく来月頃にはお声かけさせていただきます。できれば早い方が望ましいのですが、仕組みをきっちり構築してから皆様とお話しさせていただきます。

《部会長》

他に何かありませんか。無いようですので、本日はこれで「ぬくもり部会」を終わります。